

活用したらどうか。

答弁 本村ではまだ空き家の調査を行っておらず、貸したり売ったりして頂ける方の把握はしていません。村でも近隣市町の例を参考に、空き家の有効活用や定住促進について検討していきたいと思います。

②条件の良い場所で、格安に入居できる新規の村営住宅を建設したらどうか。

答弁 現在ある村営住宅もなかなか入居者がいない状況です。また、村の財政状況では国庫補助金を頂かないと建設できません。補助金を頂くことになるのと色々な縛りがあるので格安な家賃設定というわけにはいかないと思います。現状では村営住宅の建設は難しいと考えます。

福島 重次議員

質問 地域計画について

①計画の進捗状況と完成見込みについて

答弁 各地域の皆さまにご協力をいただき、地域懇談会や策定委員会を重ね、地域担当リーダーを中心に、アンケートの実施および資料の作成等に力を注いでいただきました。各地域の実情や考え方、取組み方等により進捗状況は異なりますが、現在のところ平成25年3月末までには全地域において計画書が策定

される見込みです。

②予算への反映方法について

答弁 平成25年度予算への反映方法については、去る11月末までに各地域で優先的に取り組む事業2事業以内を提案していただき、課長会議において、事業内容や補助事業として該当するか否かなど精査、検討を行いました。一部の事業については、地域に再検討をお願いすることや、ハード事業について村の施設整備計画等と照らし合わせて今後において総合的に検討し、ソフト事業については平成25年度予算に盛り込む方向で決定したものです。

③策定に係る予算執行状況について

答弁 執行状況は、地域計画策定支援業務委託料122万8千円、各地域への計画策定補助金として103万5千円、消耗品等に3万円、職員の人件費18万1千円であり、4月から11月までの総額は410万4千円です。各地域への補助金額および地区別の職員時間外手当の金額は別表（7ページに掲載）のとおりです。

④費用効果と問題点・反省点について

答弁 今、各地域において、村民の皆さんと行政とで一緒に進

めることを村全体で考え実行することが今後の地域づくりには不可欠であり、地域住民、行政が一緒になって地域をよくしていきたいと思うとともに、この事業が将来に向けて着実に進展し、そして10年後には大きな効果があがることを期待するものです。

問題点・反省点については、近年、個人の意見や要望が非常に多様化している現状において、皆さんの意見を集約し、合意形成を成し遂げることは、多くの労力と時間を要するものと認識しています。こうした状況でもおおむね当初の計画に沿って事業が進んでいることは各地域の村を良くしたいという熱意の賜物です。現段階では、大きな問題点・反省点はないと認識しています。

質問 学校給食について

①学校給食食材への「地産地消」について、村の現状および今後の推移、推進について

答弁 地産地消は大切なことと認識しており、米については埼玉県産を使用しています。大切なことは、必要な数量が安定して納入されるかという点と、そのものが農薬・放射能検査を完了しているか、また問題が発生した場合に、その責任がとれる事業体かということです。その

ような条件を満たしていれば地産地消を今以上に推進していけるのではないかと思います。

②給食費を一般会計予算に計上し、透明化を。

答弁 学校給食法第11条第1項に、給食に係る調理などに係る経費は学校を設置した自治体の負担、第2項で食材の費用は児童もしくは保護者の負担がうたっており、この関係を明確に分離するため、別会計の扱いになつていくのが現状です。

松澤公一議員

質問 この村に若い人達が定住していただくために

(内容) 少子高齢化の進む村において、改善策として若い世代の定住を促進すべきではないか。

答弁 対策としては「産業振興と企業誘致」が根幹になっていくと考えます。ゴルフ場跡地や採石場跡地といった遊休地を活用し、企業誘致に繋がる政策を進めていくため、関係各位のご理解ご協力のもと、これまで以上に取り組んでいきます。また、現行の太陽光発電設備への助成もさることながら、新築時に助成金を支給する制度の創設にも力を入れていく所存です。

質問 東秩父村のスポーツ団体に補助金を支給できないか

(内容) 村には11のスポーツ団

体があり、健康維持のために活動していることは人口の維持につながるのでは。

答弁 直接、団体の運営に資するための補助はこれまでの経緯と財政的余裕から議論しなければなりません。教育委員会としては、体育協会に「村民の健康を維持するための何らかの事業に資するための費用」として、来年度予算に一定の金額を盛り込みたいと考えています。

渡邊均議員

質問 子育て支援について

①来年度より城山保育園では1歳から3歳児までの幼児を受け入れる予定とのことですが、その対応について現況を伺いたい。

答弁 実際に低年齢児保育を実施している他の保育園への視察を行いました。施設状況、保育の状況、日課、職員体制、備品等の状況も把握することができ、必要なものが見えてきました。3月中には備品等も買い揃え、4月の受入れに臨みたいと思います。

②管外保育を利用している方たちはどのような状況で希望しているのか。

答弁 管外保育を希望されている人数ですが、来年度は城山保育園で1歳からの低年齢児受入れを開始することから、今まで